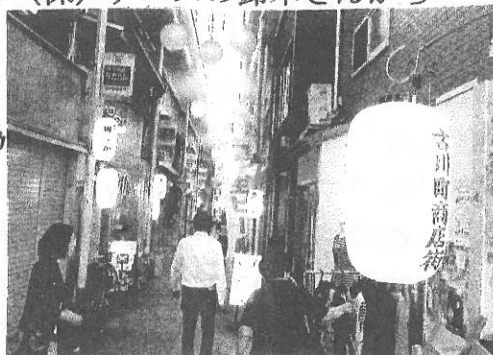


東山地区『古川町商店街』活性化

視察報告・7/27

古川町商店街の情報センター『古川趣蔵』にて京都府商工労働観光部、商業・経営支援課の職員と商店街活性化プロジェクトの(株)デコスの鈴木さんからお話を聞きました。

京都府が始めた「商店街創生センター」の活動は・・・府内に300程の商店街があるが、振興のための補助金9000万円もこれまでの様な支援ではなかなか効果が出ない。昨年(H27年)10月、府と京都府商店街振興組合など官民一体で「創生センター」を開設。商店街創生センターの職員が300の商店街を訪問し御用聞きをすることで『商店街カルテル』を作成。それをもとに“創生商店街”を選定し重点的に支援を行っているとのこと。



商店街カルテルで①商店街として形がある②少しずつ衰退しているが頑張っている③後継者が無く、かなり商店街として機能していない④商店街の形をとっていないが一つのコンセプトでネットワークをくみ成功している(激辛商店街)のパターンに分類し支援を具体的に考えていくとのこと。

かなり商店街としては成り立っていない③タイプの古川町商店街ですが、京都府の商店街リノベーションモデル事業として2014年10月から活性化プロジェクトが始まっています。1200万人の集客のある祇園と500万人が集まる岡崎、そしてすぐ隣に知恩院・平安神宮に囲まれた東山区にある古川町商店街は220mの長さの開業店舗は34、シャッター店舗11、住宅10軒、空き店舗は0です。

かつては“西の錦、東の古川”と言われ京の台所として機能していたとのこと。今も営業している店は寺社や飲食店などへの外販がほとんどの店。

道幅が狭く町家風情を残しており、ゲストハウスも何軒か創られ、新たな店舗も誘致されていました。京都大学の経営管理ゼミの学生とのコラボで外国人向けのメニューやPOPを造ったり、京都華頂大学と西川とのタイアップで母の日オリジナルギフトを製作・販売と楽しい商店街として復活するその萌芽を感じさせられました。

一日の通行量はこれまでの1400人から2330人に増加しています。個店および商店街全体の売り上げの変化についての説明がなかったのが残念です。

又、この商店街を中心にして、北は三条通り・西は東大路・東は白川の三角地帯を「白川まちづくり協議会」の活性化地域にして“京の家庭の食文化・リバーサイド開発・町家旅館・ゲストハウスの整備”の方向性が出され動き出しています。明智光秀の首塚が裏路の奥にあたり町家の風情が残っており面積108472㎡、京都東山17町に係る街づくりです。今ある歴史性、街並景観のポテンシャルを十分に生かせば大きく活性化するのではと思われました。

行政のこれまでの振興メニューを繰り返すのではなく1億4000万円の振興事業費も各地域の独自性と自主性そしてポテンシャルの発見と利活用をしていくといった京都府の支援の仕方の有効性を感じました。

千葉県商店街振興のやり方にも大きなヒントを与えてくれそうです。

千葉県議会議員ふじしろ政夫

047-445-9144